



「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 110
August
2017



Narita School of Medicine
Open Campus

4つの企画を実施した実行委員会メンバー

革新的な医学教育スタート 5キャンパス運動会特集

化研病院が「国際医療福祉大学市川病院」に

特集

医学部スタート

国の内外で活躍する医師をめざし 革新的な医学教育が始まる

四月、留学生二〇名を含む二四〇名の入学生を迎えてスタートした本学医学部は、一学期が修了した。ディプロマ・ポリシーで掲げた通り、国際的に活躍する高い総合診療能力を持ち、国際社会及び地域社会に貢献する医師を養成することを目的としていることから、国内の医学部とは次元の異なるカリキュラムを導入、一期生らは英語の「聞く、話す」を養う授業や、正常解剖などを受講している。運動会やオープンキャンパスなど課外活動も楽しんでおり、一期生らの四か月をレポートする。

入学式の翌日、四月二日から五日間のオリエンテーションを開催し、学校施設やカリキュラムに関する説明のほか、英語のクラス分けのためのテストを実施したのち、プログラムごとに違う七人班に

分かれて学生全員がお互いを理解するためのグループワークを行った。学生が六、八、一五年後の目標を立て、アクティブラーニングやeラーニングを体験して大

学生の第一歩を踏み出した。

翌週から授業がスタート。英語の「聞く、話す」力を集中的に養うため、週八（一コマの必修科目と、毎日七限目に一コマ自由科目の授業を設定。学生はレベル別に四クラスに分かれて授業を受け、七限目の自由科目では一〇人以上が参加し、二学期から英語で始まる医学の専門科目に備えている。英語の講師陣は現在、八人の外国人と五人の日本人が在籍し、うち外国人三人と日本人二人が医師という多彩な顔触れだ。

人体の仕組みを学び始める科目や、高校で学んだ物理・化学・生物の知識を医学・医療に関連づけながら深める理系科目、医療人の素養として欠かせない文系科目などに取り組んでいる。

医師のプロフェッションナリズムや直接患者さんから話を聞き身体診察を行う技



●学生参加型のアクティブラーニングを基本とした授業を実践

四か月が過ぎて

一期生である
気概と、独自の
文化と伝統を



●北村 聖・医学部長

積極的に創るという気持ちを持った一四〇人が入学してくれた。自主的に親睦パーティーを開催したり、新しいサークルを立ち上げたり、運動会では、競技のみならず一致団結した応援を披露して総合優勝したり、学業に加えて八面六臂の活躍をしてくれている。

教育は、アクティブラーニングの浸透に徹した。学生全員がP.Cを持参し、それで教材を見ながら講義を受け、教員の質

術などを養う授業では、学生が医学教育シミュレーションセンターに整備された二二室の模擬診察室を活用し、天井に備え付けられたモニターで観察・録画され、自分の技術を確認することができる。

学生は授業の理解度や具体的な意見・要望に関するアンケートに答え、全科目の授業担当者に日々伝えており、教員は質の高い教育を推進することに役立てている。授業時間外はキャンパス内で予習・復習・試験勉強を進める学生や、授業の不明点について直接、担当教員を訪れて質問する学生の姿が多くみられ、学生相談教員に生活面の悩みを打ち明ける学生もいる。

五月二日には成田キャンパスの六学科対抗の運動会が開かれ、「〇×ゲーム」や「馬跳び」「障害物競走」「応援合戦」などが行われ、医学科が総合優勝を収めた。五月二六日には、「二か月お疲れ様 party」

が行われ、教職員と学生らが親睦を深めた。成田看護学部と成田保健医療学部のサークル活動に参加するほか、自分たちで新しくサークルを設立し、積極的に課外活動も楽しんでいる。



●人体の仕組みなどを学ぶ正常解剖

教職員と学生の共同作業による 初のオープンキャンパス開催

八月五日、成田キャンパスで初めての医学部オープンキャンパスを開催した。教職員と学生による共同作業で多彩なプログラムを用意、約九〇〇人（ホームページからの申し込みを一〇〇〇人で締め切り）が来場した。来場者に配布したアンケートでは「有意義な情報収集ができた」「貴重な体験ができた」といった感想が寄せられた。

午前一〇時から北村聖・医学部長の「本学の医学部教育」と吉田素文・副医学部長兼学科長の「医学部入試概況」をテーマにした総合ガイダンスでスタート。午前一一時から医学部棟で一斉にさまざまなプログラムが開催された。

このうち人気を集めたのは学生の自主企画として実施された「学生プレゼン」と「学生カフェ」。学生プレゼンでは、留学生を含めた九人の学生が延べ一五回のプレゼンテーションを行い、本学医学部の良いところや自身の受験勉強法をパワーポイントを使



●学生カフェで個別相談に応じる学生

るプレゼンテーションもあり、参加者は二九四人にのぼり、「受験勉強の参考になった」「医学部生の生活の様子がわかった」といった感想が寄せられた。

学生カフェではスナックやドリンクを用意してリラックスした雰囲気のなかで、一二のテーブルは、この春本学の入試を突破した経験談などを熱心に聞き入る受験生や保護

者ら一〇八組、一九七人が訪れ、終日にぎわっていた。

バーチャル解剖台実演では、リアルな画像を操るバーチャル解剖台を学生が実演、画面を指でタッチすること、体内の3D画像を回転させたり、切除したりすることができ

て見せていた。顕微鏡観察や人体模型観察コーナーでは、ヒトの小脳皮質にある神経細胞のブルキンエ細胞を顕微鏡で観察したほか、自分の口腔内細胞



●バーチャル解剖台SECTRAの実演をする学生

森泰史教授の解説で神経細胞を観察



●英語模擬授業

染色して顕微鏡で観察する実演、本物のサバやイカを使ってアニサキスを観察する実験も行った。二二室ある模擬診察室も公開、モニター室で一括管理するシステムを紹介すると参加者からは最新システムの声があがっていた。

●体験コーナー「心臓の音を聞いてみよう！」

擬授業を行い、来場者が隣に座った初対面の人に英語で自己紹介する場面もあった。国際交流センターではさまざまな国の教員が来場者とコミュニケーションをとっていた。

また、医学部をめざす受験生に対して、教員が医学部の特長や入試制度について、分かりやすく個別相談に応じた。

来年はついに学びまじよう！

医学部オープンキャンパス実行委員長
医学部一年 牧広大 ラ・サール高校出身



「学生カフェ」では来場者が医学部生に気軽に相談や質問ができる空間を演出し、「学生プレゼン」には留学生も参加して、大学の雰囲気などについて「生の声」を届けた。「医学部情報誌」は受験生にとって有益な情報を盛り込んで配布し、「PR動画」では在学生インタビューを放映した。

この活動を

通じて、後輩

のために一期

生として大学

を引っ張って

いかなければという意識が生まれた。皆様に改めて感謝申し上げます。



●学生有志が編集した情報誌

特集

医学部スタート

このたび、大学院長を拝命いたしました。本学大学院は保健医療福祉の分野において、他分野と連携して指導的役割を果たすことができる国際性を身につけた高度医療専門職の育成を目的として一九九九年に開設され、今日まで順調な発展を遂げてまいりました。より深い学識と学術の理論と応用を極める努力はもちろんのこと、仕事を持つ社会人にも良好な研究環境を提供できるよう、利便性とICTを活用した教育内容に特徴があります。



三浦総一郎

他に真似できない未来志向の大学院教育を

大学院長に
三浦総一郎氏が就任
六月一日付で、約二年半にわたり大学院長を務めた天野隆弘教授が退任し、三浦総一郎教授が第五代目の大学院長に就任しました。

Profile
国際医療福祉大学大学院長。慶應義塾大学卒、医学博士。前防衛医科大学校長、防衛医科大学校長兼教授、慶應義塾大学医学部客員教授、日本消化器病学会評議員、日本消化器内視鏡学会監事、第56回日本消化器病学会大会会長。

病院長からは、生活における注意点やどのようにしたら身体や頭を健康に過ごせるかについて、ユーモアを交えてお話しがあり、会場からは時折笑い声が起っていた。大平部長は、身近なめまいを例に引き、ひとつの症状にもさまざまな原因が考えられることを紹介。総合診療科の大切さと有効性を解説し、来場者は熱心に聞き入っていた。B Jセミナーは、生徒・学生を対象にした体験型セミナー。板野理副院長・外科統括部長・消化器外科学主任教授が責任者を務めた。開講式では、板野副院長が医師に求められる要素をプレゼンテーションし、国内外の医師や他職種と連携して情報収集や研究をして治療に当たることの重要性を語った。参加した生徒・学生はそうした話を聞き、モチベーションを高めていた。

手術着に着替えた後、参加者は手術室に向かい、要救助者に器具を使用して気道確保する「救急救命体験」や、実際に手術で使用する針と糸を使った「手術縫合体験」や、超音波メス・電気メスを使って人体に見立てた鶏肉を切開

大学院長に

三浦総一郎氏が就任

六月一日付で、約二年半にわたり大学院長を務めた天野隆弘教授が退任し、三浦総一郎教授が第五代目の大学院長に就任しました。

臨床医学研究センター 国際医療福祉大学市川病院

九月一日から附属病院に移行 プレオープンホスピタルを開催

化研病院は九月一日に国際医療福祉大学市川病院となり、五番目の附属病院となった。それに先立ち八月五日、地域の方々に当院を知っていただき、これまで以上に親しみを持っていたくことを目的に「プレオープンホスピタル」を開催した。



●熱気あふれる、けんこう教室の会場

当日の大きな目玉は、けんこう教室とブラック・ジャックセミナー（以下、B Jセミナー）。けんこう教室は、「アンチ・エイジングのためのリハビリテーション」足腰の衰え・脳卒中予防大作戦！」（講師・角田亘副院長・リハビリテーション科部長・国際医療福祉大学医学部リハビリテーション医学主任教授、「めまいの原因と対処法」総合診療の視点から」（講師・大平善之総合診療科部長・国際医療福祉大学医学部総合診療医学主任教授）の二本立てで講演した。角田副



●大平部長の熱のこもった語り口に来場者が聞き入る

●角田副院長の講演は時折笑い声が上がった

手術着に着替えた後、参加者は手術室に向かい、要救助者に器具を使用して気道確保する「救急救命体験」や、実際に手術で使用する針と糸を使った「手術縫合体験」や、超音波メス・電気メスを使って人体に見立てた鶏肉を切開



●内視鏡体験コーナー。上手な参加者には景品も

このほかにも、院内では各診療科や部署が主催した車椅子自走体験や、3D画像体験などの体験コーナー、骨密度、



●丁寧な指導に応じる参加者（救急救命体験）

する「最新医療機器体験」など、六つの体験コーナーを巡った。各コーナーを担当する医師・看護師は笑顔で接し、丁寧に機器の使い方や機器を使う意図、コツなどを指導していた。



●恩賜館で子どもたちが救急救命体験

血管機能評価等のメディカルチェック、治療機器体験や脳トレ講習会などの実演・実践コーナーを開催した。昨今、知名度が上がり見学会の要望が相次ぐ恩賜館でも、BLS（二次救命処置）とAED（自動体外除細動器）の体験コーナーを設けた。親子連れに人気だったのが、薬剤室が開催した「お菓子の国の薬剤師」。液体・粉体などさまざまな形態の薬に見立てたお菓子を調合し、調剤を体験するコーナー。行列が絶えないほどの人気で、子どもたちは作った「薬」を手笑顔で部屋をあとにしていた。

この日は、午前・午後の二部構成だったけんこう教室の三二一名、B Jセミナーに参加した生徒・学生二八名を含め、一〇〇〇名を超える参加者でにぎわい、盛況のうちに幕を閉じた。

なお、九月二日には、地元の方々へのお披露目を兼ねて、参加自由の「第一回 国際医療福祉大学市川病院祭り」を開催する予定。お近くの方は、ぜひご参加いただきたい。

（総務人事課）

International University of Health and Welfare IUHW vol.110 August 2017 CONTENTS

19	18	17-16	15	14	13	12	11-10	9	8	7-6	5	4	3-2
生涯学習のご案内	講演会と説明会 二〇一七年四月～八月学生募集イベントについて、医療福祉学部二〇周年記念セミナー開催 九州地区で進学ガイダンス五一会場で開催	国際トピックス ミャンマー・IUHW研修センターへのリハビリ機器贈呈式、海外協定校は拡大ハンガリー・セントルイス大学栃木地区施設を訪問、ベトナムで人間ドックサービス提供事業を準備中、さくらサイエンスプラン事業でヤンゴン医学生が本学訪問、成田キャンパス新入留学生歓迎パーティー	施設インフォメーション 国福病院 病棟増築・宿泊棟など四施設の起工式、塩谷病院・「地域医療連携懇談会」を開催、熱海病院「医療安全講習会 チームSTEP」を開催、健康講座と市民公開講座 一覧	大川 九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会を開催、大川市長が郷土論で講演、学友会主催の球技大会を開催、約六〇〇名が清掃活動に参加 山後期講座開講のお知らせ	大学院 平成三〇年度に新研究科を開設 文科省「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」採択、今後の進学相談会の予定、乃木坂スクールin青山 後期講座開講のお知らせ	特集 各キャンパスで運動会 ボランティア部が清掃活動に参加、新入生歓迎会を開催、グループ関連病院説明会を開催、集中力向上の教育講演を開催	福岡 九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会を開催、大川市長が郷土論で講演、学友会主催の球技大会を開催、約六〇〇名が清掃活動に参加 山後期講座開講のお知らせ	小田原 フレッシュマンプログラム開催、小田原市最大級の祭り「北條五代祭り」に学生参加、大学教養入門で「箱根寄木細工」学ぶ	成田 西田裕介学長と河野健一講師が韓国で開催の学術大会に参加、梅宮敏文教授が第六六回日本医学検査学会の会長に就任、山口将希助教が「第五一回日本理学療法学会大会」奨励賞を受賞、成田祇園祭に学生三十四人が参加、澄川真依さんが「第二五回全国競技かるた多摩大会」A級の優勝、医学部が「献体の取り組み」を始めた	大田原 関連職種連携ワークショップ報告会に学生九〇〇人参加、関連職種連携実習に三三チーム一九六人参加、元防衛医科大学に三度目の訪問、台湾の国際学生学術会議で貴重な体験、宮城県岩沼市の「千年希望の丘植樹祭」に参加、保護者のための就活講座（一〇一七）を開催、認知症力FEI大学オレレンジカフェin大田原」を開催、献血IUHW、二つの商業系高校と新たな高大連携事業を開始	キャンパスレポート ② 大学院長に三浦総一郎氏が就任	① 「市川病院」誕生とプレオープンホスピタルを開催	トピックス 革新的な医学教育スタート 医学部4か月の現状、教職員と学生の共同作業による初のオープンキャンパス開催

第110回 大田原 キャンパスレポート

関連職種連携ワークショップ報告会に 学生九〇〇人参加

学生のうちから「チーム医療・チームケア」を実践的に体験するカリキュラム「関連職種連携教育」が今年度も実施され、七月一日、大田原キャンパスで「関連職種連携ワークショップ報告会」が行われた。

「関連職種連携ワークショップ」では、模擬事例をもちい問題解決型体験学習(チュートリアルPBL)のグループワークを通して、職種間連携の基礎技能を学ぶもので、全学科の三年生、約九〇〇名が参加。学科混成の二〇名程度の学生グループを八六チーム編成、大田原キャンパス全学科・センターの教員九三名がチューターとして指導にあたった。

「報告会」の午前の部で、事例ごとに各教室に分かれ学修成果を発表、これをもとに学生と教員で投票を行い優秀賞の選出を行った。優秀賞に選ばれたチームおよびグローバルチームは午後の部で再度、発表した。



●優秀賞に選ばれたチームの発表

関連職種連携実習に 二二チーム一九六人参加

学科横断のチームを作成し、実際の病院や福祉施設で五日間の実習を行う「関連職種連携教育」の最終ステップである「関連職種連携



●学長と共に植樹する学生たち

保護者のための就活講座 二〇一七を開催

保護者と一年生から三年生の在校生を対象に、大卒看護師の就活をサポートするとともに、関連病院への就職を促進することを目的として「保護者のための就活講座二〇一七」を六月二十四日に開催した。参加者は五三名。

午前中は坪倉繁美学科長の挨拶後、就職担当から「これからの大卒看護師の就活のすすめ」をテーマに、就職に関連する動向や就職先の選択に伴う留意点などを説明した。なかでも、将来に向けて看護の専門性を磨き、キャリア形成が確実にできる就職先の選定が重要であることを強調した。

本学卒業生である国際医療福祉大学病院の熊谷宙大氏からは、卒業後の不安な時期に先輩から教えられたことや自主的な学習に取り組みながら、今日までにキャリアアップを重ねてきた苦労や喜びなど、後輩に向

実習が七月二十八日から八月四日、行われた。

今年度は一九六人の学生が三チームに分かれ、本学の附属・関連をはじめとする一四の施設で実習を行った。附属病院である国際医療福祉大学熱海病院では大田原キャンパス、小田原キャンパスとの混合チームを作成、キャンパスを超えての連携を行った。

実習先では他職種の現場を訪れ、他職種への理解を深めながら、チームが担当する実際の患者さんや利用者の情報を収集。これに基づいてアセスメントを行い、結果をサマリにまとめた後、治療計画やサービス計画を作成した。

最終日には、カンファレンスで計画案を発表し、医療現場の医師や専門職から意見や質問を受けることでより現実的な内容になった。こうした「職種間連携」の体験を受けて、八月二六日には大田原キャンパスで「報告会」が実施された。

(教務課 佐藤幸絵)

元培医事科技大学に 三度目の訪問

台湾・新竹市にある元培医事科技大学で開催された第一〇回国際学生学術会議に四年生の中島遙さんと参加した。今回が三度目の訪問で、初回は四年前にこの会議で学科の平山さんが発表し、二年前の前回は理事長、学長らと創立五十周年記念式典に参列した。

中島さんは大学近隣の保育園・幼稚園で実習の一環として行っている視機能健診の成果とその意義についてまとめ、公衆衛生のセッションで発表した。多くの出席者が熱心に耳を傾け、座長からの英語の質問にも一生懸命に答えていた。

発表当日の夜に行われた懇親会では、

各国の引率教員やゲストスピーカーに加えて、蔡執行理事、黄国際部長、林校長ら元培医事科技大学の役職者一同が参加し、新竹名産の米粉を交

えた美味しい台湾料理を堪能し、後半は全員が参加してカラオケで大いに親睦を深めた。

今年一月まで本学で四か月間学んでいた視光系の黄君、李さん、程さんと再会でき、楽しいひと時を過ごすことができた。黄君は来年度、本学大学院への入学を望んでおり、日本語の勉強に余念がない。両校の交流が今後益々活発になり、国際的に活躍できるグローバルな視野を持った人材が育っていくことを期待している。

(副学長・視機能療法学科長 新井田孝裕)



●左から程さんと黄君、中島さん、視光系学科長の呉先生と新井田学長

台湾の国際学生学術会議で 貴重な体験

元培医事科技大学で行われた国際学生学術会議に三月二三日からの四日間にわたり参加し、英語で研究発表した。

日本、台湾の他に中国、韓国、マレーシア、ドイツ、タイ、フィリピンから総勢六一人の学生が参加しており、グローバルな交流となった。私にとつて、このような国際交流は初めての体験で、全てが新鮮だった。英語は得意ではなかったが、表情やジェスチャーを交えてコミュニケーションをとることができ、様々な国の人と達と会話がはずみ、たくさんの友人ができた。

発表後は学内の施設を見学し、夜は学生主体のウェルカムパーティーに招かれた。最終日は新竹市と台北市を中心に観光を楽しんだ。今回、この会議に参加

したことで、英語を克服するとともに、コミュニケーション能力を向上することができた。さらに、台湾の医療事情や他国の異文化について多くのことを学び、とても貴重な体験となった。この会議に携わった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいである。今後は、これらの経験を活かし、一層精進していきたい。



●発表翌日の台北ツアー(台北101の前で)

宮城県岩沼市の 「千年希望の丘植樹祭」に参加

海岸近くの丘に植樹することにより自然の防潮堤を築くプロジェクト「千年希望の丘植樹祭」が宮城県岩沼市で五月二七日開かれ、大友邦学長や学生三五名、教職員一名が参加した。二〇一三年から続き、今年で四回目。同プロジェクトは約二八万本の植樹を終え、今回で目標の三〇万本に到達し、最終年の参加となった。

当日、現地に着くまでは土砂降りの雨だったが、会場に入るといつの間にか雨雲は消え、約一時間半の植樹活動を行った。苗木を植える丘は傾斜がきつく、雨で足元がぬかるんでおり、楽ではなかったが、四年生がチームをまとめ植樹を開始。学生が学長に木の植え方を教える一幕もあり、教員と学生の絆を超えた共同作業で、一本一本

丁寧に苗木を植えていった。

泥だらけになりながら四六名で植えた五〇〇本の苗木は一〇年後、二〇年後、岩沼市に住む方々の安全、安心を守ってくれる大きな木に育つはずだ。一人ひとりの被災地への思いを形に残すことができた今回の植樹ボランティア。心に刻まれた体験を大切な記憶として残し、今後も被災地支援を、学生・教職員と共に継続していきたい。

(IUHWボランティアセンター 福田規予子)

けて強いメッセージが送られた。国際医療福祉大学病院の教育担当副部長の小川京子氏からは、関連病院における卒後教育体制やキャリア発達への支援体制の充実、働きやすさなど、関連病院の魅力といえる側面からの説明があった。

午後からは、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学塩谷病院、なす療育園に分かれて病院見学を実施した。参加者からは、就職先選択の観点が分かったと好評だった。

(看護学科就職係 教授 笹谷孝子)



●保護者に説明する熊谷宙大氏

認知症カフェ「大学オレジン カフェin大田原」を開設

認知症の人とその家族を対象とする認知症カフェ「大学オレジンカフェin大田原」ほつと安心できる場所」を六月から開設した。

大田原市高齢者幸福課地域支援係および大田原市内各地区地域包括支援センター職員、本学教職員の共同運営で、認知症の人やそのご家族、診断を受けてはいないが認知機能に不安を抱えている人などが、語り合える場や主体的に行動できる場を提供するとともに、地域の方々を支える場所になることをめざしている。認知症の方やそのご家族の相談に専門スタッフが応じるほか、勉強会なども行う。



●学食がおしゃれなカフェに様変わり

献血で厚生労働大臣表彰

七月九日、栃木県などが主催する「平成二九年度献血功労者表彰式」が開かれ、本学は献血の推進に積極的に協力したことが評価され、厚生労働大臣表彰状を贈呈された。

大田原キャンパスでは、ほぼ毎月一回構内で行われる献血に多くの学生や教職員が協力しており、過去一〇年間、年間平均約五〇〇名が献血している。今年度からは、学生が参加しやすい午後の時間帯に採血車を一台増やして対応してもらっている。

栃木県赤十字血液センターによると、献血は一回の採血から次の採血まで一定の間隔(男性一二週間、女性一六週間)が必要なので、「毎回これだけの規模の方が献血してくれる施設はめったにない」と話している。

今回、全国では九三件の大表彰が選出されているが、栃木県からは本学のみが受賞した。

輸血用血液の需要は年々増大しており、医療福祉を志す本学の学生が積極的に



●鈴木誠一副知事から新井田副学長へ

二つの商業系高校と 新たな高大連携事業を開始

今年度、那須清峰高校および宇都宮商業高校と高大連携協定を締結し、高大連携事業を開始した。

本事業は医療福祉・マネジメント学科の山本康弘副学長が、学校評議員を務める那須清峰高校の「校内課題発表会」を見学したのがきっかけ。商業を学ぶ生徒に病院経営や医療・福祉分野への進学を視野に入れている生徒も多く、相互の交流・連携を通じて高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、高校教育と大学教育の活性化を図ることを目的に実施された。

かねて本学との連携強化を検討していた宇都宮商業高校とも高大連携事業を開始し「1dayキャンパス見学会」などの企画を実施することとなった。

本事業では、本学学生による高校生への学習支援、高校生の本学の授業や活動への参加、大学施設の開放、教員間の教育・研究における情報交換等を行い、高校と大学の相互に教育効果が現れることを期待している。

(入試広報室 小川貴宏)



●那須清峰高校校長と大友学長

成田

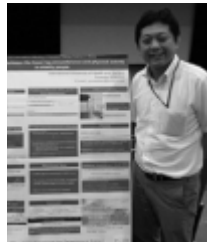
第8回
キャンパスレポート西田裕介学科長と河野健一講師が
韓国で開催の学術大会に参加

七月一四日～一六日に韓国のEulji Universityで開催された22th International Meeting of Physical Therapy Science (大会長 MyungChul Kim: Eulji University) に理学療法学科の西田裕介学科長と河野健一講師が参加しポスター発表をした。

・西田裕介「Relationship between the lower leg circumference and physical activity in elderly people.」

・河野健一「Comparison of effectiveness of intra-dialytic exercise on solute removal in Japanese hemodialysis patients.」

今回の学会では「健康寿命を伸ばすための理学療法士の役割: The necessity of expanding the role of Japan and South Korea physiotherapy area for the Successful Aging Health」をメインテーマに、後期高齢者や要介護者の増加といった日韓の共通する問題点に対する理学療法士の役割について、特別講演や多くの研究報告がなされた。従来からの障害を負った後の治療的理学療法にとどまらず、老年症候群に関連する心臓血管疾患、代謝疾患、認知症、運動器疾患に対する予防的理学療法的重要性を多国



●西田裕介学科長

間で共有することができた。

また、韓国の学生が数多く研究発表をしていた点が印象的だった。韓国ならびに Eulji University は、成田キャンパスの必修科目である海外保健福祉事情Ⅱにおける海外研修先でもある。本学科の学生も、研修や学生間交流を通して多くの刺激を受けてくれることを期待している。

(講師 河野健一)

梅宮敏文教授が
「第六六回日本医学検査学会」
の学会長に就任

六月一七日～一八日、千葉県・幕張メッセで開催された第六六回日本医学検査学会で医学検査学科の梅宮敏文教授が学会長を務めた。



今回は最近の新しい検査技術や検査業務のあり方、業務拡大の可能性など、めざすべき臨床検査技師の未来像を考える場を提供。北島政樹副理事長が、「低侵襲・個別化がん治療の展開」「医工・産学連携を基盤とした日本の匠」と題して特別講演を行った。

山口将希助教が
「第五一回日本理学療法学術大会」奨励賞を受賞

五月一二日から一四日、第五二回日本理学療法学術大会が開催され、前回大会で奨励賞を受賞した山口将希助教らの表彰式が行われた。山口助教の表彰内容は

第43回
小田原
キャンパスレポートフレッシュマンプログラム
開催

小田原キャンパスでは五月二十日、新入生を対象にした「フレッシュマンプログラム」を城内校舎で開催した。このプログラムは看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科の枠を超えた交流を図り、チーム医療を学習することに目的としている。



●黒澤和生学部長による講話

①学食メニューを考える

小田原の地元食材を使用した「丼」「麺」「定食」の部門でメニューを考え、それぞれの最優秀作品を投票で決定。今後、学食メニューになる予定で進行中。

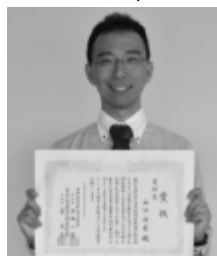
②ミニスポーツ大会

小田原市最大級の祭り
「北條五代祭り」に学生参加

毎年五月三日に行われる小田原市内最大級のイベント「北條五代祭り」が、今年も盛大に開催された。この祭りは、小田原市観光協会が主催するもので、戦国

「骨軟骨欠損モデルラットに対する細胞移植と低出力超音波パルス治療の併用が欠損修復に及ぼす影響」についての研究報告で、再生医療に対して、リハビリテーションが担う役割を示した。

本学術大会は理学療法学分野では日本最大で、一五〇〇以上の研究報告の中から選ばれた。理学療法学科では西田裕介学科長・教授の優秀賞(第三九回)、竹内真太助教の大会長賞(第四五回)、澤龍一助教の奨励賞(第五〇回)に続く四人目の受賞となった。



成田祇園祭に学生二十四人が参加

七月七～九日、成田市の夏の一大イベントである成田祇園祭が開催され、本学から合計二十四人の学生が四つの町内の山車に参加した。学生一一人と教職員が参加した花崎町の山車は午前一一時にJR成田駅前を出発し、踊りの奉納や休憩を繰り返しながら折り返しコースを練り歩いた。



●大学の揃いの法被を着て山車を引いた

成田山新勝寺の奥之院に奉安された「大日如来」に五穀豊穡・万民豊樂・所願成就を祈願するこの祭は地元の注目や期待も高く、地域に開かれた大学として、来年度以降も参加を継続していく予定である。

澄川真依さんが「第二五回全国
競技かるた多摩大会」A級の部優勝

言語聴覚学科二年の澄川真依さんが、七月一七日に行われた「第二五回全国競技かるた多摩大会」のA級の部で優勝した。同大会は男女混合で世代を問わず、階級に分かれて行う全国大会のひとつで、澄川さんはA級の全七戦を勝ち抜いた。昨年の第三三回全日本大学かるた選手権大会の「一回生の部」優勝に続く快挙。

(広報係 金井雅之)

医学部が「献体」の
取り組みを始めました

新設された医学部の学生にとって、最も重要な授業の一つが解剖学です。二年次に「正常人体解剖実習」という科目があり、ご遺体で人体の構造を学ぶと共に、献体していただいた方々に感謝し倫理観を身につける機会にもなります。この実習は、医学教育のために無条件・無報酬で提供される献体によって行われます。このため「国際医療福祉大学 献体の会」を設立し、千葉・東京・埼玉・茨城・栃木の各都県を中心に会員募集を始めましたが、新設医学部にとって短期間に献体の会の会員を増やすことは簡単ではありません。教職員の皆さまも、知人の方々に本学の献体の取り組みを紹介していただければ幸いです。詳細は医学部のホームページで確認願います。

(教務課 柳辰哉)

「並び替えゲーム」「二人三脚リレー」「八字とび」の三種目。熱い応援の中、グループで協力して、学生らは競技に真剣に取り組んだ。

③小田原市散策

小田原市のボランティア三人にご協力いただき、三チームに分かれ、ボランティアの話聞きながら、桜並木で有名な西海子(さいかい)小路や、明治以降、小田原に住んでいた文学者や政財界人の邸園を巡る歴史感のある散策コースを歩き、本学キャンパスのある小田原市の歴史を知ることができた。

プログラムの最後に、学生委員長の藤本幹・作業療法学科長が総評を述べ終了した。

このプログラムを通して、新入生たちが小田原保健医療学部の一員として、学科の枠を越えた仲間との絆を作る機会を持てたことは有意義だった。また、開催にあたり、プログラムの準備、運営、撮影などに関して、学友会、スポーツ大会実行委員、写真サークルの先輩学生の協力があり、一年生にとって、先輩学生と学年を超えた関わりを持つ良い機会にもなった。

(学務課 下田智香子)

大学教養入門で
「箱根寄木細工」学ぶ

五月二九日の六限目に、小田原キャンパス城内校舎で「大学教養入門」の第八回目の講義が行われた。本講義は一年生を対象とした必修講義。「物理」「化学」の基礎を学ぶほか、「文章、レポートの書き方」



●甲冑を身にまとった加藤憲一・小田原市長と

「接遇について」と題して、レポートの書き方や医療人としてのマナーを学ぶなど、一年生がこれから四年間、大学で学んでいくための導入教育として開講している。今回はその最終回として『小田原市の産業について』をテーマに、小田原箱根の寄木細工に携わる若手職人集団「稚木囃子」のみなさんに、小田原箱根の伝統工芸である寄木細工について講義いただいた。



●寄木細工の若手職人集団「稚木囃子」のみなさん

講義は、寄木細工はどのように生まれたのかといった歴史から始まり、寄木細工の幾何学模様がいかにして造られているか、これからの寄木細工のあり方などの講義の後、「ズク」(寄せ木を組み合わせて接着した種木を作り、それを一枚の紙のように削ったもの)の作成を実際に体験する演習形式で行われた。最後は寄木細工に関するクイズ大会で幕を閉め、講義は終始盛り上がった。

学生は学習体験や参加型の講義に大変興味を持ち、地元産業の成り立ちについて深く学ぶことができたようで、有意義な講義になった。「稚木囃子」の方々に、講義いただいたことに感謝するとともに、今後とも地域に根づいた大学としてのあり方を模索し、小田原市をはじめとした地域との連携をさらに深めていきたい。

(学務課 加納正基)

IUHW 5 Campuses Sports Day

5月20日、大田原、成田、大川、福岡の各キャンパスで運動会が一堂に開催された。

大田原では今年度から周辺の自治会にお声がけし、地域の皆さんをご招待、100人が見物に来訪した。

運動会に備えて夜遅くまで練習している学科対抗応援合戦で盛り上がり、毎年恒例の男女混合リレー「美女と野獣」が今年も白熱、理学療法学科が優勝した。

成田では2回目となる運動会を成田市体育館（中台運動公園）で開催。

成田看護学部と成田保健医療学部に、4月に開設したばかりの医学部が加わり、3学部による賑やかで活気溢れる運動会となった。応援合戦は、各学科のみごとな団結がみられ、館内が大いに盛り上がった。競技や応援合戦の合計得点で優勝チームは医学部に決定した。

福岡と大川では合同運動会が、大川キャンパスの運動場で開催、

全学科対抗リレーで締めくくられ、学生らは最終種目まで楽しく交流した。

小田原ではフレッシュマンプログラムとして

「ミニスポーツ大会」が開かれた。

どのキャンパスも新入生がメインに参加するので、新入生同士、先輩との交流を深める良い機会になっている。



大田原 キャンパス



●応援合戦



●栄光の架け橋



●大縄跳び



●綱引き



●応援合戦

成田 キャンパス

●代表仮装
障害物リレー

●総合優勝に輝いた医学部の応援合戦

(理学療法学科
チーム)

(教員チーム)



●昼休みのひとときに記念撮影

福岡 キャンパス

大川 キャンパス



●看護学部が応援合戦優勝



●実行委員記念撮影

小田原 キャンパス



●ミニスポーツ大会



●学科別対抗リレー



●綱取り合戦



●ダンス対抗

第33回
福岡

キャンパスレポート

ボランティア部が
清掃活動に参加

福岡市主催の清掃活動「ラブアースクリンアップ」が福岡市早良区百道浜海岸で五月二一日開催され、本学のボランティア部一〇名が参加した。



●百道浜のゴミを拾う学生たち

海岸に打ちあげられた昆布やワカメ、漂流して流れていた外国製の食品容器や袋、タバコの吸い殻などのゴミを、部員同士、あるいは他の参加者とコミュニケーションを図りながら、一つひとつ拾っていった。前日に行われた合同運動会の疲れを感じさせず、積極的に活動し、学生らはきれいになっていく海岸を見て嬉しそうにしていた。昨年の熊本地震を機に創設されたボランティアサークルが今年度から部へと昇格し、一〇数名であった部員も三〇名近くまで増えた。キャンパス周辺の清掃活動も定期的に行っており、学生らのボランティアを通じて社会貢献にこれからも期待したい。

(学生係 水洗朋美)

新入生歓迎会を開催

多くの新入生や上級生が参加する毎年恒例の新入生歓迎会(学友会主催)を五月三〇日に開催した。

軽音楽部の演奏によるオープニングから盛り上がり、お菓子やジュースを手に入生も手拍子をしながら楽しそうに参加していた。



●新入生の前で演奏を披露する軽音楽部

学年の垣根を越えた交流が目的のビンゴ大会では、豪華なものからユニークなものまで景品を用意し、それらを狙って争奪戦が繰り広げられた。ビンゴ大会の間には自己紹介の時間も取り、先輩・後輩間だけではなく、新入生同士の仲も深まったのではないかと感じた。

今後もハロウィンやクリスマス会などイベントを企画しており、多くの学生に参加してもらい、もっと学内を盛り上げていけるように学友会一同取り組んでいきたい。

(学友会会長 看護学科二年 諸永龍平)

グループ関連病院説明会を開催

長く厳しい臨地実験が終了し、すべてをやり通した達成感で笑顔満開の三年生を対象に三月一八日、グループ関連病院説明会が開催された。

高木病院をはじめ、二〇二〇年に成田市に開院予定の国際医療福祉大学成田病院まで含めた全八病院の看護部長と人事担当者、就職している卒業生が各病院の特長や周辺の環境等について、具体的に説明した。



●人事担当者との昼食懇親会

昼食懇親会を挟んで午後からは各病院の個別相談会が行われた。参加した学生からは「インターンシップに行ってみたーい!」など就職への関心が高まったという声も聞かれた。三年生にとっては、これから本格的に就職活動を開始する時期を迎え、とても貴重な時間となった。

(看護学科 准教授 永井あけみ)

集中力向上の教育講演を開催

七月六日、「マインドフルネスを体験しよう」をテーマに、日本のマインドフルネス研究の先駆者である琉球大学の伊藤義徳准教授による教育講演を開催した。マインドフルネスとは、有名企業などで従業員のメンタルヘルスや集中力向上に用いられ、近年、日本にも浸透してきたメソッド。「今、この瞬間の体験に意図的に意識を向け、評価をせずに、とらわれない状態で、ただ観ること」と定義され、瞑想を主なテクニックとしているが、宗教的要素はなく、第三世代の認知行動療法として、肥満・摂食の問題、矯正教育・犯罪の再発予防、ターミナルケアなど医療・教育分野で実践され、エビデンスも蓄積されている。

携帯電話をはじめとしたSNSツールの普及により、「今ここ」に意識を集中することが難しい時代になっているが、「今ここ」に注意を向けることで、今何をすべきかの問題解決能力や自己決定が促進される。

今回は、学生委員会にて二年生の授業への集中度や注意の制御力を高める目的で企画し、学生と多くの教職員が参加した。終了後のレポートでは「終わった後、達成感や心の落ち着きを感じる事ができた」、「マインドフルネスとは自分で自分を取り戻すことだとわかった」などの感想が挙げられた。今後は、学生や教職員への新たなメンタルヘルス対策としても用いていきたい。

(看護学科 教授 白石裕子)

第47回
大川

キャンパスレポート

九州地区リハビリテーション
臨床教学共同研究大会を開催

若手職員の教育・研究の推進を目的に七月二日、国際医療福祉大学・高邦会グループ「第七回九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会」を大川キャンパス二号館大講義室で開催した。グループ各施設からリハビリテーション職員や教員が一堂に会し、辻貞俊・福岡保健医療学部長による研究会代表挨拶と高邦会リハビリテーション部の村上武士課長による大会長挨拶で幕を開けた。



●特別講演を行う深浦教授

柳川リハビリテーション病院リハビリテーション科の廣松聖夫部長が「廃用症候群及びボツリヌス治療について」をテーマに特別講演、国際医療福祉大学大学院の深浦順一教授(日本語聴覚士協会会長)

が「地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの役割」をテーマに教育講演を行った。

続いて、「地域包括ケアシステムにどう関わるか」をテーマにシンポジウムを実施。国際医療福祉大学福岡保健医療学部理学療法学科の中原雅美准教授、介護老人保健施設水郷苑の森脇悦子さん(作業療法士)、福岡国際医療福祉学院言語聴覚学科教員の吉永明史さんがシンポジストとして登壇。現在の活動を報告し、高邦会リハビリテーション部の室岡真弘副部長を座長としたディスカッションの中で積極的な意見交換が行われた。

各施設の近況報告では国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科の片山雅史准教授が「臨床検査技師とリハビリテーションスタッフの連携について」報告し、多職種連携の重要性について発表。国際医療福祉大学福岡保健医療学部理学療法学科の森田正治学科長を座長とした質疑応答では活発な質問が飛び交い、リハビリテーションに携わる若手職員にとって充実した一日となった。

(教務係 江口征隆)

大川市長が郷土論で講演

四月二日、倉重良一大川市長が総合教育科目「郷土論」で九〇分間にわたって講演し、大川市の概要や産業構造について分かりやすく説明した。

参加者は大川キャンパス一年生約二〇〇名。三三平方キロメートルの面積の中に、約三〇〇キロメートルのクリークが



●学生の前で講演する倉重市長

流れていることや、外国為替の取扱量が福岡市に次ぎ県内二位であり、輸出入が非常に盛んな街であるとの解説に学生らは驚きの声を上げていた。

倉重市長は、「現在は公共施設でのWiFi整備に力を入れており、県内で一番若い市長なのでもっといろいろな要望を上げてもらいたい。共に大川市を良い街にしていきたい」と学生に呼びかけていた。講演終了後は、学生とともに学生食堂で昼食をとり、早速、学生の声に耳を傾けていた。

(入試学生募集課 井上雅博)

学友会主催の球技大会を開催

六月一〇日、大川キャンパスで毎年恒例の学友会主催の球技大会が行われた。この球技大会は、スポーツをとおして学生間の親睦を図ることを目的としており、本年は一年生と二年生によって、グラウンドではサッカー、体育

約六〇〇名が清掃活動に参加

館ではバレーボールの熱戦が繰り広げられた。五月二〇日に合同運動会が行われた後でもあり、学生同士打ち解けた雰囲気の中、応援にも熱が入った、大いに盛り上がった球技大会となった。当日は晴天にも恵まれ、普段交流の少ない他学科との連帯感や、先輩・後輩の結束も深まった有意義な一日となった。

(学生係 石橋武彦)

地域社会への貢献活動として、学友会主催で清掃活動を実施した。

今年度は、昨年参加できなかった三年生も含め、一三三年生約六〇〇名と学科教員が参加する大規模なものとなった。学友会執行部が先導し、各学科・学年別に大学近辺、市役所前、大川中央公園等担当地区の清掃を行った。



●歩道に落ちているゴミを拾う学生たち

一時間ほどの清掃活動ではあったが、たばこの吸い殻や空き缶、壊れたビニール傘などの多くのゴミを回収した。学生にとっては、大川市内の美化に貢献することができ、また自分が学ぶ地域や環境について振り返るよい機会となったようだ。

(学生係 杉原活郎)

第17回 大学院 キャンパスレポート

平成三〇年度に新研究科を開設

平成三〇年四月、大学院は東京青山キャンパスから、来年二月完成予定の「東京赤坂キャンパス」へ移転する。東京赤坂キャンパスは、銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」の出入り口から徒歩三分と利便性のよい場所にあり、地上二階地上二階建てで、建物内には一〇〇〇人を収容できる講堂や図書館、体育館などを備え、学びやすい環境が整っている。

新キャンパス誕生に合わせ、大学院は新しい研究科のほか、分野、領域を拡充する。

まず、公衆衛生学専攻（修士課程）と医学専攻（博士課程）からなる「医学研究科※」の新設を予定している。

新分野として「災害医療分野」「遺伝カウンスリング分野※」を新設する予定。前者は個人や家庭、地域や公共団体などの様々な主体と連携し、日常的な防災・減災に向けた取り組みを担う中核的人材の育成をめざしており、後者は遺伝子について習熟し、遺伝学的検査に基づく社会的なサポートを行える遺伝カウンセラーを養成する。

このほか、看護学分野にはがん専門看護師を養成する「がん看護学領域」、保健師資格の取得をめざす「公衆衛生看護学領域（実践コース）」、さらに先進的ケア・ネットワーク開発研究分野には一年コ

ースとなる「自立支援介護学領域」を開設するなど、多様化する医療のニーズに応えるべく、各分野で学べる内容を充実させる予定だ。詳細は大学院のホームページをご確認ください。

※設置認可申請中

（大学院運営室 近納一重）

文部科学省「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」採択

平成二九年六月、本学や東京医科大学を含む連携八大学が共同で取り組む「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン」が、文部科学省「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）』養成プラン」事業として採択された。

本学ではこれまでも、第一期として自治医科大学との共同事業「全人的ながん医療の実践者養成」、第二期には慶應義塾大学を中心とした連携一〇大学の共同事業「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」が採択を受け、多職種連携をめざしたがんプロフェッショナル医療人材の育成プログラムに取り組んできた。第三期となる本事業では、これらの成果を継承しつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の育成プログラムとして、平成三〇年四月より、新たに「ライフステージに対応したがんプロフェッショナル多職種協働人材育成コース」および「ゲノム解析医療：希少がん診療に精通した医療者

育成コース」を大学院課程に開設する。

今後、本学のがん医療教育のスペシャリストが協議を重ね、教育カリキュラムを構築していく。興味をお持ちの方は、ぜひ受講ください。

（大田原キャンパス教務課 鈴木享）

今後の進学相談会の予定

大学院ではオープンキャンパスや各分野専攻が主催する進学相談会を実施している。実施予定は以下の通り。

■大学院オープンキャンパス

九月九日（土）、全分野を対象とし、東京青山、大田原、成田、小田原、福岡で開催。

全体説明会や個別進学相談を実施する。一月一四日（日）にも予定。

■助産学分野

二月二日（土）に大田原キャンパスで、一月七日（土）、二月八日（金）九日（土）に福岡キャンパスで開催。

■福祉支援学分野

一月二六日（木）、二月二日（金）、福祉用具管理指導者領域志望者を対象に説明会を実施。授業見学も可能。

■医療経営管理分野

一月九日（月・祝）、二月一〇日（日）に開催。説明会のほか、模擬授業を実施。

■診療情報アナリスト養成分野

二月二六日（日）、第一〇回となる分野主催講演会とあわせて開催。

■臨床心理学専攻

九月九日（土）、一月一四日（日）に開催。当日は説明会の他、過去問も配布。詳細は大学院ホームページまで。

乃木坂スクールin青山、後期講座開講のお知らせ

大学院が主体となって運営する「乃木坂スクールin青山」は、本学教員や各界の有識者も講師としてお招きする、最新の医療福祉事情を学べる公開講座である。

平成二九年度前期は全二三講座を開講した。新規に開講した「医工産学連携実践講座2017」や「医療計画とがん計画」の策定作業まつた中に考える」のほか、四回にわたる特別講演会では本学の北島政樹副理事長、天野隆弘副学長、武藤正樹教授、木村伊量特任教授が登壇し、「トランプ大統領就任後の世界情勢」から「医学教育の潮流と新しい医学部が目指すもの」まで幅広いテーマで展開した。

後期も全二三講座を開講する予定で、新規講座「病理医と学ぶ日本人に多い疾患（病気）その国際的比較・検討」や「マネジメントとリーダーシップによる医療福祉イノベーション」など注目の講座が目白押し。詳細、お申し込みは乃木坂スクールのホームページへ。

【平成二九年度 後期の注目講座】

- #02 惑星直列の2018年ダブル改訂の展望（高橋泰教授）
- #03 わたしたちはどこへ向かうのか（近代への旅・現代文明への問い）（木村伊量特任教授）
- #12 羽ばたいたく日本式医療ツーリズム（水巻中正教授・武藤正樹教授）
- #15 災害医療（災害に立ち向かう医療者たち）（荒木田美香子教授・山下留理子准教授）

（大学院運営室 井上大輔）

附属病院

国際医療福祉大学病院

病棟増築、宿泊棟など四施設の起工式

五月二一日、国際医療福祉大学病院の増築と病院敷地内に新設する研究棟および宿泊棟、本学グループの社会福祉法人邦友会が当院敷地内に新設する西那須認定こども園の四施設の起工式を執り行った。本学と邦友会の高木邦格理事長、大友邦学学長、那須塩原市の君島寛市長らが神事に出席、安全祈願をした。



当院はより充実した医療を提供するとともに、成田キャンパスにおける医学部開設に伴い、中核的な役割を担う実習施設としての役割を果たすため、五五床の増床のための増築および研究棟を整備し、医学部実習生や教員らが宿泊できるホテルを建設する。新病棟は平成三〇年二月、研究棟は同年三月、宿泊棟は同年六月に完成予定。当院はこれにより四〇八床となる。

高木理事長はあいさつで「栃木県北地域で充実した医療・福祉を提供できる拠点づくりをめざし、関東を代表する病院に育てていきます」と話した。

西那須認定こども園は、定員一三五人に加え、定員六人の病児保育を備えた施設となる。今年一二月に完成、来年四月の開園予定。

（国際医療福祉大学病院 総務企画課）

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

「地域医療連携懇談会」を開催

「第一四回地域医療連携懇談会」が六月二九日、院内の大会議室で開催され、院内および近隣の医師二九名とともに多数の関係者に参加した。

当日は、塩谷病院の須田康文病院長のあいさつに続き、第一部で国際医療福祉大学病院の大竹孝明副院長が「ウイルス性肝炎の最新治療」を、須田病院長が「外反母趾up to date」をテーマに講演を行った。

第二部では、



医療機関の医師やスタッフが一堂に会してゆつくり話す場がなによりことから、情報交換などの交流を図るうえで有意義な機会となった。次回開催は、平成二九年秋の予定。

（塩谷病院 総務・人事課 川上二郎）

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

「医療安全講習会（チームSTEPS）」を開催

七月一一日、院内で「平成二九年度第一回医療安全講習会」を開催した。

医療安全講習会は、医療事故を防ぐとともに、患者様に安全な医療を提供できるように、全職員を対象として定期的に開催している。

今回はチーム医療の向上を目的とし、横山直司看護部長による「チームSTEPS」を実施した。「チームSTEPS」は、チームとしてのよりよいパフォーマンスおよび患者安全を高めるための戦略で、米国防省と米国防省と米国防省との協力により開発された患者安全プログラム。



講習会では、チームごとに紙のり、はさみを用意し、制限時間内にいくつもの条件のもと、輪を作り繋げていく作業を行いました。成績がよかったチームは、いち早く状況を理解し、メンバーそれぞれが協力して作業を行った。実際の医療現場においても、「チームSTEPS」を遂行し、今後もよりよい、そして安全な医療を提供していきたいと、職員一同考えている。

（熱海病院 総務課 曾根大輔）

健康講座と市民公開講座一覧 （二〇二七年四月～八月）

	国際医療福祉大学病院	三田病院	山王病院	熱海病院	化研病院	塩谷病院
4月	「動脈硬化を治療し、10歳若返ろう」 松本拓也医師	「そのもの忘れ、大丈夫ですか？ ～認知症との上手なつきあい方～」 村井弘之医師	「内視鏡で行う乳がん手術のお話」 山下浩二医師	—	「知っておきたい乳がん～あなたの不安に答えよう～」 神森 真医師	—
5月	「ストレスが原因で体調不良になっていませんか？」 岡孝和医師、山田祐医師	「抗がん剤治療にまつわる諸問題・説明を聞いてもよくわからないこと」 樋口肇医師	「大腸がんのお話～腸腔鏡を使った消化器外科手術～」 石原聡一郎医師	「肺がんについて～予防・がん検診・機能温存の外科治療～」 吉田 成利医師	「あなたの「かゆみ」をなおします～生活改善と適切な治療で皮膚病は克服できる～」 菅谷 誠医師	「足の障害・原因と対策シリーズその②」 「外反母趾って病気？ 治るの？」 須田康文医師
6月	「もっと知ろう乳がんのこと」 堀口淳医師	「切って治す脳卒中」 河島雅到医師	「介護予防の口コモ教室～いつまでも自分の足で歩くために～」 中村洋医師、増子佳世医師	「病理部門の役割～がんの基礎知識とがん医療について～」 金網友木子医師	「ひざ・股関節の痛みと治療～いつまでも元気に歩き続けるために～」 竹島 憲一郎医師	「むくみ・だるい・かゆい」～それは治せます。～寝ているうちにおわるレーザー焼灼術（下肢静脈瘤）～ 地引政利准医師
7月	「～ここまで進歩した女性医療～胎児診断、遺伝、婦人科がん～」 大和田倫孝医師、田中宏一医師、柿沼敏行医師	「首こりと腰痛の予防と解消法」 石井賢医師	「不妊セミナー」 堤 治医師、藤原敏博医師	「知って得する皮膚疾患」 高橋一夫医師	「生活習慣病のいろは～サイレントキラーをいかに防ぐか～」 竹本 稔医師	「むくみの痛みでお困りの方へ」 榮利昌医師
8月	「元気に歩き続けるために～ひざ・股関節のお話～」 高橋謙治医師	「知っているようで知らない肉腫のお話～見えてきた治療への手がかり～」 高橋克仁医師	「屈折異常とその矯正法について～近視？乱視？老視？とは～」 五十嵐章史医師	「いつまでもよい聴こえを保つには～聴こえのちからどう守る・どう活かす～」 原田竜彦医師	「アンチ・エイジングのためのリハビリテーション～足腰の衰え・脳卒中予防大作戦～」 角田昌医師 「めまいの原因と対処法～総合診療の視点から～」 大平善之医師	—

★ミャンマー、 IUHW研修センターへの リハビリ機器贈呈式

七月二日、ミャンマー・ヤンゴン市内にある国立リハビリテーション病院に対してリハビリテーション用機材を寄贈した。寄贈した機材は、腹臥位時のマッサージなどに使用する「トリートメントテーブル」や、高齢者・低体力者のための「エクササイズチェア」など二六種類、二二〇〇点。
同市内で開かれた贈呈式では、ミン・トゥエ・ミャンマー保健スポーツ省大臣が、これまでの国際医療福祉大学のミャンマーに対する貢献とともに、リハビリテーション現場で必要不可欠な機材を寄贈したことに對する謝辞を表明、在ミャンマー



●寄贈目録を手渡す高木理事長(左)とミン・トゥエ・ミャンマー保健スポーツ省大臣

上とリハビリテーション分野の人材育成に協力する覚書を同国保健省と締結、その内容に基づいて昨年八月には国立リハビリテーション病院内に「IUHWリハビリテーション研修センター」を開設した。開設記念として本学の教員四名とJICAシニアボランティア一名(本学特任教授)が、ヤンゴンの医療福祉関係者を対象に研修を実施している。
今年も七月から八月にかけて、先進的医療体験を目的とする「さくらサイエンスプラン」でミャンマー医学生研修受け入れ、本学学生の海外医療福祉事情研修でのヤンゴン訪問で学生交流を図った。

(国際部長 都築晃)

海外協定校の拡大

二〇一七年度に入り、ニュージーランド・オタゴ大学と四月四日、中国・中国科学院大学と四月二四日、ミャンマー・ヤンゴン第二医科大学と七月二日、新たに学術交流協定を締結した。これにより、協定締結先(大学・機関・病院)は現在、合計で三六となり、国・地域別にみると二一〇となった。
オタゴ大学は一八六九年に設立(一八七一年開校)されたニュージーランド最古の大学で、ニュージーランドに八校ある国立大学の一つ。ニュージーランドで医学部を設置しているのは、同校とオークランド大学の二校のみで、歯学部を設置しているのは唯一、オタゴ大学だけで同国の医学教育をリードしてきた伝統校。中国科学院は、中国における自然科学の最高研究機関であり、国の科学技術政策にも関与する最高諮問機関。一九四九年の設

立で、初代院長は九州大学医学部を卒業した作家 郭沫若氏。主要都市に一二の分院を持ち傘下の研究機関は一〇〇を数える。
ヤンゴン第二医科大学は、一九六三年に創設され、ミャンマーに五校ある医科大学の一つ。それぞれ協定の締結を契機に、今後、さらに相互交流を深めていく予定だ。

(国際部)

国・地域	提携先
台湾	元培醫事科技大學
タイ	マヒドン大学 (公衆衛生学部) クルンヤン大学
USA	ハワイ大学 カピオラニ校 フィラデルフィア科学大学 メイスカレッジ ピッツバーグ大学医学部 コロラド大学デンバー校 (看護学部)
中国	首都医科大学 中国科学技術大学 建陽太学
韓国	仁済大学 乙支太学
ミャンマー	ヤンゴン第一医科大学 ヤンゴン医療技術大学 ヤンゴン看護大学 ヤンゴン第二医科大学 ホーモン市医療薬科大学
ベトナム	ハノイ医科大学 グヴィンフ大学
オーストラリア	オタゴ大学
ニュージーランド	国立モンゴリア科大学
モンゴル	国立モンゴリア科大学
インドネシア	ウタヤナ大学
マレーシア	マレーシアメント・サイエンス大学
フィリピン	フィリピン大学ニラ校医学部
カンボジア	カンボジア国立保健科学大学
イギリス	イーストアングリア大学
フランス	パリ第二大学
ハンガリー	セメルweis大学
中国	中国リハビリテーション研究センター
オーストラリア	テイフ クイーンズランド
シンガポール	ナショナルポリテクニク
ベトナム	国立ハックマイ病院

ハンガリー、 セメルweis大学 栃木地区施設を訪問

ハンガリーのセメルweis大学のアーゴシュトン・セルル学長、ヨージエフ・シャインドル外科学教授、マルセル・ポップ国際部長らが四月二日の本学医学部開設式に出席後の五日、大田原キャンパスと国際医療福祉大学病院を視察した。



●ハンガリーのセメルweis大学の幹部らと

セメルweis大学名誉医学博士でもある北島政樹副理事長・名誉学長の案内で放射線情報科学科やバーチャル解剖学実習室、国際交流ラウンジ、ボランティエセンター、国際医療福祉リハビリテーションセンター、なす療育園を視察した。
国際医療福祉大学病院では、大和田倫孝病院長による病院概要の説明後、セメルweis大学医学部客員教授でもある消化器外科の吉田昌教授の案内で、オペを視察した。今後、両校の交流がますます進むことが期待される。

(国際部)



★ベトナムで人間ドック サービス提供事業を準備中

本学と二〇年以上の交流があるベトナム南部基幹病院のチョーライ病院と共同して実施する人間ドックサービス提供事業が、平成三〇年春の事業開始に向けて準備が進んでいる。



●完成予想図

本事業の日本側実施主体として本学は東芝メディカルシステムズと共同で平成二八年一二月にグローバル・メディカルシステムズ株式会社を設立した。日本水準の人間ドックサービスをベトナムにおいて提供することを目的とし、医療機材については東芝メディカルシステムズの医療機器を中心とした日本製医療機器を導入することとしている。

(国際部)

★さくらサイエンスプラン 事業でヤンゴン医学生が 本学訪問

七月二六日から八月二日まで八日間の日程で、科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流計画(さくらサイエンスプラン)」事業で学術交流協定を結んでいるミャンマー・国立ヤンゴン第一医科大学と国立ヤンゴン第二医科大学の教員と医学生が本学キャンパスや附属医療福祉施設を視察しました。
参加したのは、ヤンゴン第一医科大学から一医科大から医学生七名と教員一名、ヤンゴン第二医科大学から医学生三名の合計十一名。
一行は、成田キャンパスと青山キャンパスで本学医学部などの教授陣から「日本の医療事情」「二世紀の医学教育」などの講義を受け、続けて成田キャンパスでは医学部の授業や学生寮を見学しました。大田原キャンパスでは、附属福祉施設を訪問、その後、移動して国際医療福祉



成田キャンパス 新入留学生歓迎パーティ

成田キャンパスの学生食堂で四月二五日、前年度から在籍している留学生と教職員が新入留学生の歓迎パーティを行った。

参加者は、留学生三三名、教職員一九名の計五二名で、学部・学科を越えて留学生たちが集まりとても良い顔合わせとなった。新入留学生はみな日本語で挨拶や抱負を懸命に語り、先輩留学生からは「医療系大学での勉強は簡単ではないけれど、先輩や教職員に相談しながら沢山の経験をしたい」と温かい言葉が贈られた。

(国際部)



二〇一七年四～八月
学生募集イベントについて

二〇一七年度の学生募集活動は、各地での講演会・進学相談会をはじめ、高校訪問、予備校訪問などを交えて、着々と進めている。二〇一八年四月開設予定の赤坂キャンパス関連については、四月一六日に東京・秋葉原で開催した成田キャンパスと合同の特別講演会を開催、大友邦学長の挨拶、和田秀樹・大学院教授の特別講演に続いて、成田キャンパスと赤坂キャンパスの概要説明を、担当の教員が行った。

五月一四日に東京・渋谷六三二五日に東京・三田病院、七月二七日に東京・青山キャンパス、八月六日に成田キャンパスのオープンキャンパスにあわせて、進学説明会を毎月開催し、新しく設置する赤坂心理・医療福祉マネジメント学部、PRを展開している。



業の依頼があり、青木万里・心理学教授予定者（大学院教授）が七〇名の生徒を対象に、赤坂キャンパスの説明を兼ねた授業を行った。今年四月に開設した医学部についても二年目の学生募集に向けて、七月八日に東京・品川で特別講演会・進学相談会を開催、五五〇名の参加がありました。大友邦学長の挨拶に続いて北村聖・医学部長、赤津晴子統合教育センター長、吉田素文副医学部長が講演を行い、留学生や帰国子女を対象にした説明会も実施した。

六月二五日には、小田原キャンパスの説明会を静岡市で開催した。

（広報部長 小畑洋一）

六月二五日、医療福祉学部の二〇周年を記念したセミナー「高校生のためのキャリアデザイン」が宇都宮・東武ホテルグランデで開催され、女優の北原和子さん、フリーアナウンサーの工藤敬子さんが、キャリアデザインについて、概念や医療福祉専門職の重要性についてトークセッションを行った。丸木一成医療福祉学部長による本学部の説明には、高校生やその保護者二〇〇名が聞き入っていた。「入試対策講座」や「ミニオープンキャンパス」も併催し、会場は終日多くの来場者でにぎわった。

七月一五日、大田原キャンパス説明会を駿優予備学校郡山校で開催。キャリアコンサルタント皆川絃子さんによる「高校生のため

医療福祉学部
二〇周年記念セミナー開催

九州地区の学生募集活動は、業者主催進学ガイダンスを八月までで五一会場で実施、六八六名の進学相談に応じた。昨年度より直接、高校生へ本学の魅力を伝えることができる高校内ガイダンスに力を入れており、八月までで三六校で実施した。

講演会・進学相談会は七月八日に和田秀樹・大学院教授の特別講演会を那覇市で、八月五日には大友邦学長による特別講演会を大川キャンパスにて実施、オープンキャンパス来場者を含め七五〇名の参加となった。昨年度より地域トップ高である伝習館高校との高大連携をスタート。今年度は「B・LS講習」「バランスの研究」「菌の培養」「発色剤テスト」など多岐に渡る要望に応じ、本学の魅力を伝えることを行っている。

今年度はキャンパス見学の申し込みが多数寄せられており、七月五日には明豊中学高

九州地区で進学ガイダンス
五一会場で開催

のキャリアデザイン」の講演や新井田孝裕副学長による大田原キャンパス紹介が行われ、地元高校生らが熱心に聞き入っていた。

翌一六日には、ホテルメトロポリタン長野で本学主催の特別講演会を開催。精神科医である香山リカ氏の「生きる力の処方箋」「自分に無理をさせない生き方」をメイン講演に、北島政樹副理事長、武田弘志薬学部長が薬学部や漢方について講演、一六七名が聴講した。

（入試広報室・渡辺いずみ）

実施日	対象キャンパス	場所
4月 16日(日)	成田・赤坂	秋葉原(UDX)
5月 14日(日)	赤坂	渋谷(TKP)
27日(土)	福岡看護学部・福岡保健医療学部	下関(海峡メッセ)
6月 16日(金)	赤坂・教員	東京・青山・戸田ビル
25日(日)	赤坂	東京・三田ホール
25日(日)	大田原SHM	宇都宮(東武ホテル)
25日(日)	小田原	静岡(センチュリーホテル)
25日(日)	福岡看護学部・福岡保健医療学部	鹿児島(南日本新聞会館)
7月 1日(土)	福岡看護学部・福岡保健医療学部	熊本(熊本市国際交流会館)
8日(土)	成田医学部	品川(TKP)
15日(土)	福岡看護学部・福岡保健医療学部	那覇(パシフィックホテル)
16日(日)	大田原	郡山(ビューホテル)
22日(土)	大田原・薬学部	長野(メトロポリタンホテル)
27日(木)	福岡看護学部・福岡保健医療学部	佐賀(佐賀新聞本社)
8月 5日(土)	福岡看護学部・福岡保健医療学部	東京・青山キャンパス
6日(日)	赤坂	大川キャンパス
20日(日)	赤坂	成田キャンパス
		成田キャンパス

四～八月の主な学生募集イベント一覧

等学校（大分）の保護者二〇名と佐賀東高校（佐賀）一年生七〇名の大川キャンパスの見学、七月二一日には光陵高校（福岡）二年生四〇名が福岡キャンパスを見学。七月二二日には杉森高校（福岡）一年生一六名、七月一九日には福島高校（福岡）二年生四〇名が大川キャンパスの見学会に参加した。

六月九日には大川キャンパス、六月一六日には福岡キャンパスにて高校教員対象大学説明会を実施。今年度より言語聴覚学科学科長に就任した為数哲司教授が特別解説を行い、大川キャンパス五五五名、福岡キャンパス八六校九一名、計一三七校一四六名の高校教員、予備校関係者が参加した。対前年一一一％の参加者増となった。

（入試学生募集課 井上雅博）

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学修の場を提供しています。

IUHW Graduate School Informations

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」
社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス 大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
- ③同時双方向遠隔授業 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 2018年4月 東京赤坂キャンパス開設予定!

東京都港区赤坂の旧赤坂小学校跡地に開設する赤坂キャンパスでは、現在の東京青山キャンパスを移転して新しい分野・コースを開設し、生涯教育の拠点として大学院教育のさらなる拡充をめざします。

詳細は大学院ホームページをご覧ください

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL : 0287-24-3200)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

●介護・福祉分野

自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護



●医療・福祉・経営実務

社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●リハビリテーション
共通分野

リハビリ職のための医療福祉管理

●受験講座

ケアマネジャー受験講座2017

●厚生労働省情報

障害保健福祉関係主管課長会議

(平成29年3月8日開催) ※無料配信

老健局全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議

(平成29年3月10日開催) ※無料配信

●乃木坂スクール

支援機器活用の最前線(生活支援機器概論)

●情報BOX

納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IHWグループ職員・学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」<http://www.ch774.com/student.php>

主な
配信番組

●大学授業・副教材

死生学～死を通して生を考える～、教育学、雑談と傾聴～話す力と訊く力～、日本近現代史、宗教学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、ボランティア論、医学・医療史、生命倫理、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、健康科学理論、リスクマネジメント論 など



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.iuhw.ac.jp/>

©国際医療福祉大学2017 Printed in Japan 禁無断転載・複写

広報誌 IUHW 110 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔成田キャンパス〕

千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕

福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

編集：東京事務所広報部 ☎03-3475-7710

デザイン：野佐デザイン

Ohtawara Narita Odawara Fukuoka Okawa

Sports Day

そろって運動会 走り、跳び、響く歓声

応援合戦でエール交換 団結の9学部22学科

